

摘心による灰色かび病の防除

[要約]

自然仕立て園において、冬季に発生する灰色かび病による枝条の枯死は、秋期の生育停止期以降に摘心することにより防ぐことができる。

[担当] 京都府立茶業研究所・栽培課

[連絡先] 電話 0774-22-5577、メール ngc-chaken@pref.kyoto.lg.jp

[部会名] 茶業

[専門] 作物病害

[対象] 工芸作物類

[分類] 普及

[背景・ねらい]

自然仕立て園において、冬から春にかけて発生する枝条の枯死は、凍害を受けた葉や枝の傷口などから灰色かび病菌が感染することに起因しており、自然仕立て園で重要な病害である。この枝条枯死を防ぐため、摘心による防除効果を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 薬剤処理による防除効果は、防除率 25.3%と低い(図1)。
2. 摘心による防除効果は、摘採機で摘心を行っただけでは、摘心できない芽が残るため、防除率 45.7%と低い(図1)。
3. 剪定ばさみを用いて秋期の生育停止期以降に、枝条を1心3葉の位置で摘心することによって、防除率は1997年度 94.3%(図1)、1998年度 84.5%(表1)と安定しており、防除効果が高い。

[成果の活用面・留意点]

1. 灰色かび病による枯死は、発病枝率が低い場合は収量に与える影響が少ないので、摘心する必要はない(表1)。
2. 摘心することにより、‘あさひ’、‘こまかげ’など頂芽優勢の品種では腋芽が充実し芽揃いがよくなり品質が向上する。

[具体的データ]

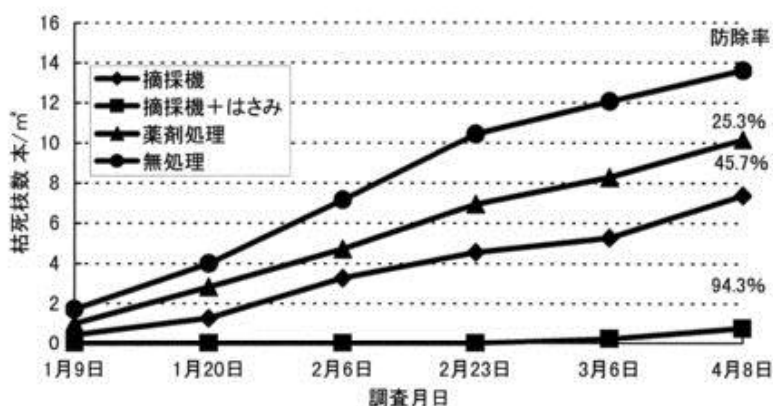


図1 灰色かび病防除効果(1997年)

品種：あさひ、9 m² (5 × 1.8m) 2 区制
 摘採機は摘採機で摘心、摘採機+はさみは摘採機で摘心して残った芽を剪定ばさみですべて摘心した。
 薬剤処理区：イブロン水和剤(12月、1,000倍)、フルジナム水和剤(1月、2,000倍)、300L/10a 散布
 摘心処理：1997年11月27日

表1 摘心処理による灰色かび病防除効果 (m²当たり) (1998年)

試験区	1999年2月23日		1999年3月25日		1999年4月26日			収量 ^{a) c)} (kg)
	枯死枝数 ^{a)} (本)	防除率 (%)	枯死枝数 ^{a)} (本)	防除率 (%)	枯死枝数 ^{a)} (本)	枯死枝率 ^{b)} (%)	防除率 (%)	
全面摘心	0.7a	90.5	1.3a	86.0	1.4a	2.2	84.5	0.6a
半分摘心	4.4b	43.7	5.5b	40.0	5.9b	9.1	36.0	0.5a
無処理	7.7c	—	9.2c	—	9.2c	14.5	—	0.5a

品種：あさひ、試験区：9 m² (1.8 × 5m) 5 反復、摘心処理：1999年1月5日～8日
 全面摘心は凍害芽をすべて摘心、半分摘心は凍害芽の半分を摘心した。
 a) 同一英小文字はTukey法 (P<0.05) で有意差なし。
 b) 枯死枝率は試験区のm²当たり枝数から算出した。
 c) 摘採日：1999年5月14日～16日

[その他]

研究課題名：灰色かび病の防除法の確立
 予算区分：府単
 研究期間：平成11年度(平成8～10年)
 研究担当者：福永晃士、上辻久利、藤原敏郎、工藤康將
 発表論文等：自然仕立て園における灰色かび病の被害解析、茶業研究報告、第88号(別冊)、54-55、1999.